

平成19年1～3月期結果の概要

今期の概況

1 今期の個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I

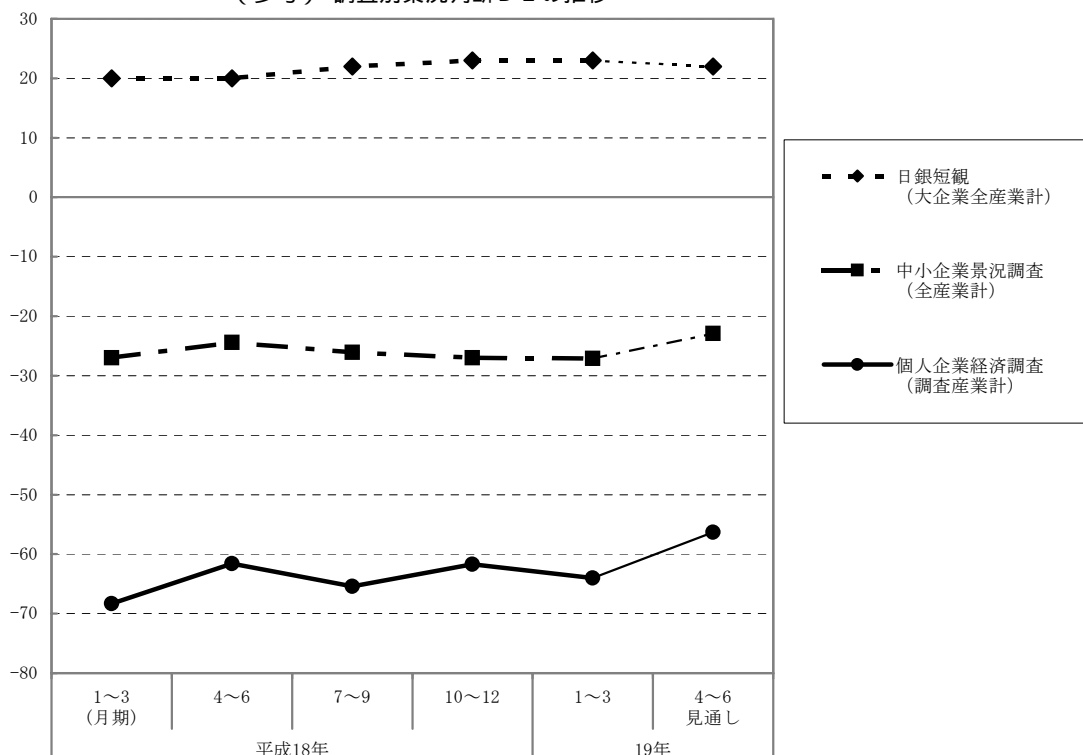
今期の業況判断
今期（平成19年1～3月期）の業況判断D Iは (-)64.0 で、前期（平成18年10～12月期）(-61.7)に比べ、2.3 ポイントの悪化。

来期の見通し
来期（平成19年4～6月期）の業況見通しD Iは (-)56.3 で、今期の業況判断(-64.0)に比べ、7.7 ポイントの改善の見通し。

表1 業況判断の割合

	平成18年				19年	
	1～3月期	4～6月期	7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期 見通し
今期の業況，来期の業況 (%)						
良い／好転	2.8	3.6	3.5	4.9	4.1	3.8
普通／不変	26.1	31.2	27.6	28.4	27.7	36.1
悪い／悪化	71.1	65.2	68.9	66.6	68.1	60.1
D I	-68.3	-61.6	-65.4	-61.7	-64.0	-56.3

(参考) 調査別業況判断D Iの推移



(出典)

「日銀短観」：日本銀行調べ

「中小企業景況調査」：独立行政法人 中小企業基盤整備機構調べ

(注1) D Iとは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「良い」、「好転」、「増加」、「過剰」と回答した事業所の割合から「悪い」、「悪化」、「減少」、「不足」と回答した事業所の割合を差し引いた値をいう。

(注2) 「個人企業（個人経営の事業所）の業況判断D I」は、調査4産業全体の指数である。

2 今期の売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は、	
□「製造業」	は 261万1000円で、前年同期に比べ、16.0%の増加
□「卸売・小売業」	は 472万6000円で、前年同期に比べ、2.6%の増加
□「飲食店、宿泊業」	は 246万2000円で、前年同期に比べ、17.8%の増加
□「サービス業」	は 137万7000円で、前年同期に比べ、1.6%の増加
今期の1事業所当たりの営業利益は、	
□「製造業」	は 74万4000円で、前年同期に比べ、6.9%の増加
□「卸売・小売業」	は 53万2000円で、前年同期に比べ、1.3%の増加
□「飲食店、宿泊業」	は 56万円で、前年同期に比べ、23.1%の増加
□「サービス業」	は 46万8000円で、前年同期に比べ、9.3%の減少

前年同期(平成18年1~3月期)

表2 産業別売上高及び営業利益

		(1事業所当たり)								
		製造業		卸売・小売業		飲食店、宿泊業		サービス業		
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益	
実数 (千円)	平成17年	1~3月期	2,899	857	4,718	519	2,402	538	1,412	527
		4~6月期	2,881	851	4,808	528	2,392	536	1,508	639
		7~9月期	2,555	692	4,876	536	2,313	475	1,441	575
		10~12月期	2,896	877	5,184	641	2,322	468	1,480	588
	平成18年	1~3月期	2,251	696	4,607	525	2,090	455	1,355	516
		4~6月期	2,546	755	5,007	558	2,060	447	1,448	588
		7~9月期	2,635	759	4,782	565	2,158	450	1,447	534
		10~12月期	2,878	834	5,462	599	2,285	441	1,583	573
	平成19年	1~3月期	2,611	744	4,726	532	2,462	560	1,377	468
	前年同期比 (%)	平成17年	1~3月期	-4.0	-3.9	-4.0	-9.9	3.5	4.1	-1.4
4~6月期			-9.5	-8.0	-1.6	7.5	2.0	14.3	-10.9	-5.2
7~9月期			-22.2	-27.9	0.9	10.7	-6.8	-2.9	-8.2	-0.3
10~12月期			-11.5	-2.1	1.3	5.8	-10.3	-9.1	-9.8	-6.1
平成18年		1~3月期	-22.4	-18.8	-2.4	1.2	-13.0	-15.4	-4.0	-2.1
		4~6月期	-11.6	-11.3	4.1	5.7	-13.9	-16.6	-4.0	-8.0
		7~9月期	3.1	9.7	-1.9	5.4	-6.7	-5.3	0.4	-7.1
		10~12月期	-0.6	-4.9	5.4	-6.6	-1.6	-5.8	7.0	-2.6
平成19年		1~3月期	16.0	6.9	2.6	1.3	17.8	23.1	1.6	-9.3

3 今期の設備投資額

今期の1事業所当たりの設備投資額は、	
□「製造業」	は 10万3000円で、前年同期(11万円)に比べ、減少
□「卸売・小売業」	は 9万1000円で、前年同期(7万5000円)に比べ、増加
□「飲食店、宿泊業」	は 6万7000円で、前年同期(5万1000円)に比べ、増加
□「サービス業」	は 6万1000円で、前年同期(4万4000円)に比べ、増加
今期の1事業所当たりの設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は、	
□「製造業」	は 3.9%で、前年同期(4.9%)に比べ、1.0ポイントの低下
□「卸売・小売業」	は 1.9%で、前年同期(1.6%)に比べ、0.3ポイントの上昇
□「飲食店、宿泊業」	は 2.7%で、前年同期(2.4%)に比べ、0.3ポイントの上昇
□「サービス業」	は 4.4%で、前年同期(3.2%)に比べ、1.2ポイントの上昇

前年同期(平成18年1~3月期)

表3 産業別設備投資額及び設備投資率

		(1事業所当たり)							
		製造業		卸売・小売業		飲食店、宿泊業		サービス業	
		設備投資額	設備投資率	設備投資額	設備投資率	設備投資額	設備投資率	設備投資額	設備投資率
		(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)	(千円)	(%)
平成17年	1~3月期	168	5.8	85	1.8	64	2.7	45	3.2
	4~6月期	121	4.2	118	2.5	109	4.6	118	7.8
	7~9月期	159	6.2	168	3.4	60	2.6	138	9.6
	10~12月期	124	4.3	96	1.9	58	2.5	134	9.1
平成18年	1~3月期	110	4.9	75	1.6	51	2.4	44	3.2
	4~6月期	101	4.0	150	3.0	79	3.8	77	5.3
	7~9月期	207	7.9	74	1.5	92	4.3	139	9.6
	10~12月期	176	6.1	221	4.0	59	2.6	256	16.2
平成19年	1~3月期	103	3.9	91	1.9	67	2.7	61	4.4

業況判断

1 調査産業計

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成19年1～3月期）の業況判断D Iは（-）64.0で、前期（平成18年10～12月期）（-61.7）に比べ、2.3ポイント悪化した。

イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）53.7で、前期（-42.6）に比べ、11.1ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成18年1～3月期）と比較した業況判断D Iは（-）52.8で、前期（-56.0）に比べ、3.2ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年4～6月期）の業況見通しD Iは（-）56.3で、今期の業況判断（-64.0）に比べ、7.7ポイントの改善の見通しとなっている。

図1 業況判断D Iの推移 - 調査産業計 -

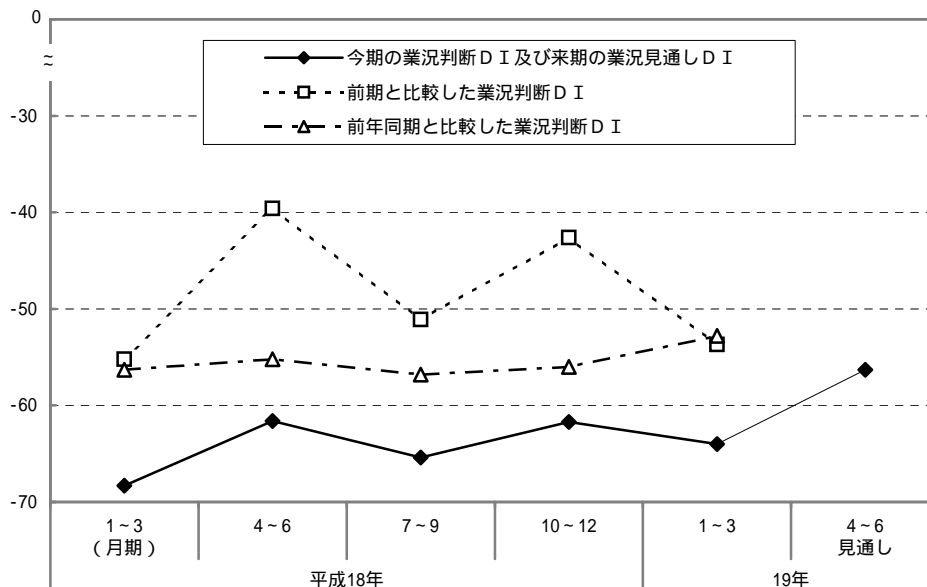
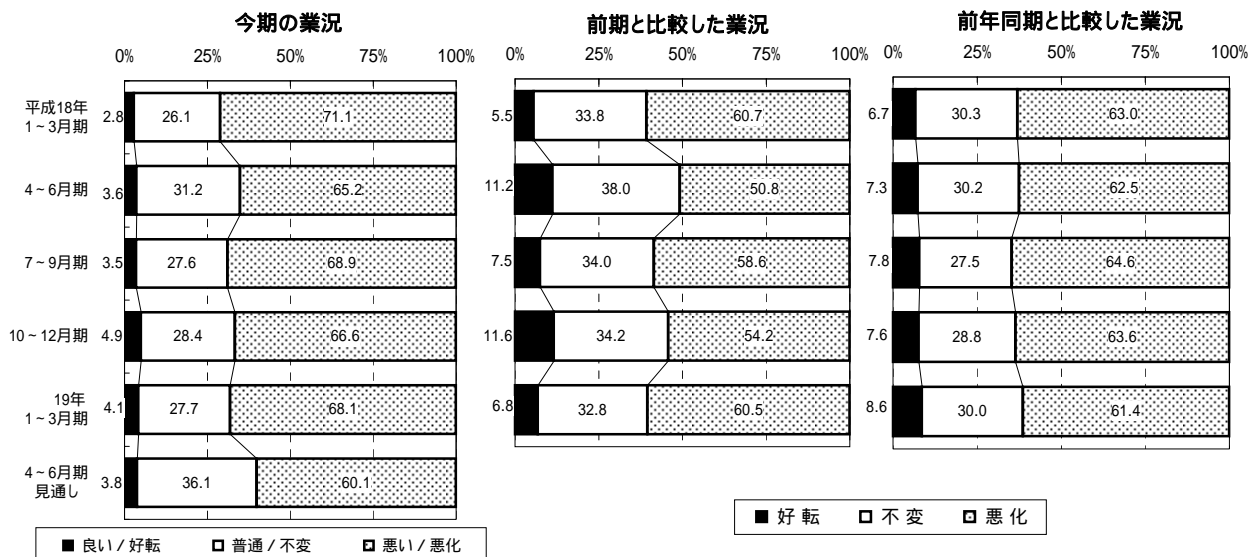


図2 業況判断の割合 - 調査産業計 -



(2) 売上の状況

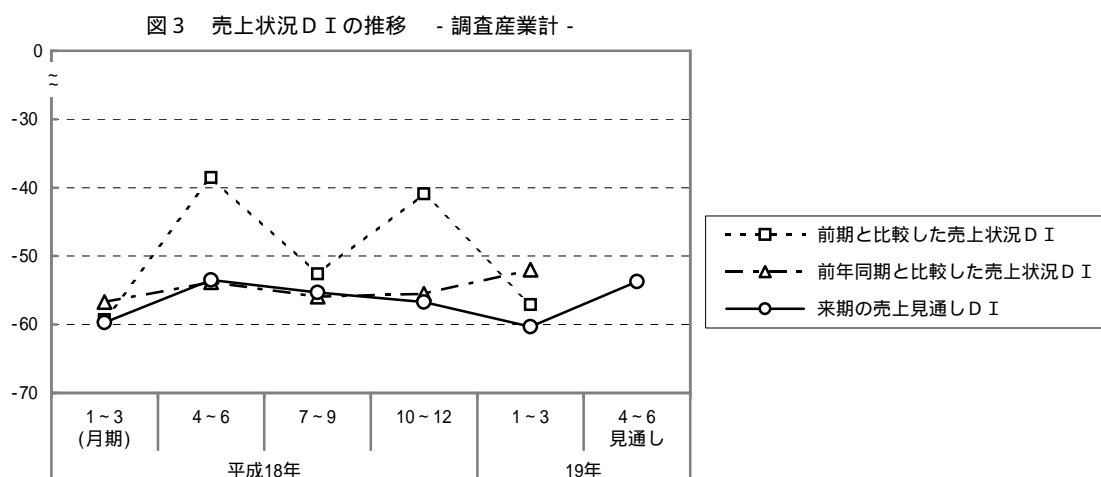
今期の売上の状況

ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)57.1 で、前期 (-40.9) に比べ、16.2 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)52.0 で、前期 (-55.5) に比べ、3.5 ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)53.7 で、前期における今期の売上見通し (-60.3) に比べ、6.6 ポイントの改善の見通しとなっている。



(3) 営業利益の状況

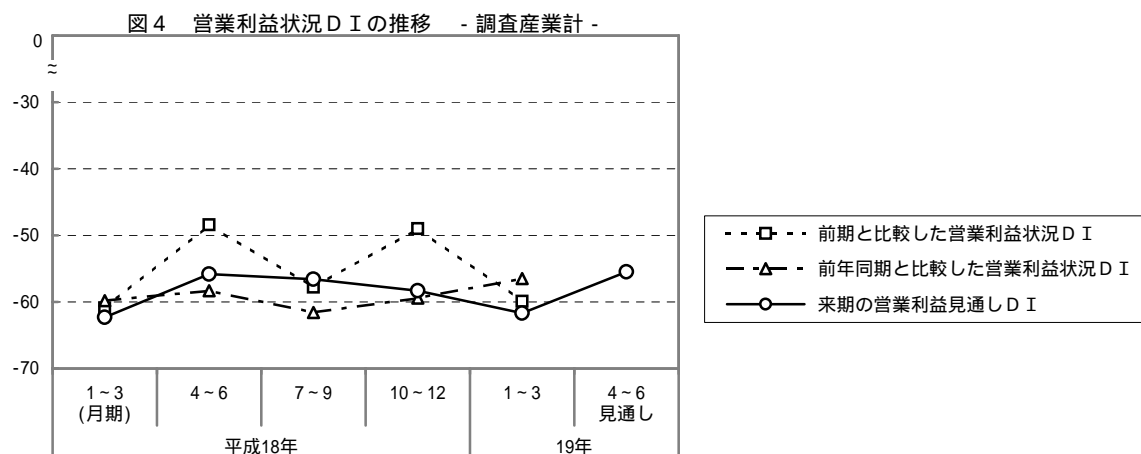
今期の営業利益の状況

ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)59.9 で、前期 (-49.0) に比べ、10.9 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)56.5 で、前期 (-59.4) に比べ、2.9 ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

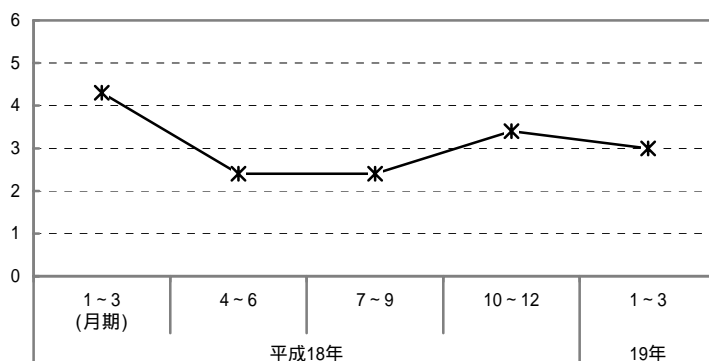
来期の営業利益見通しD Iは (-)55.5 で、前期における今期の営業利益見通し (-61.7) に比べ、6.2 ポイントの改善の見通しとなっている。



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)3.0 で、前期 (+3.4) に比べ、0.4 ポイント「過剰」が縮小した。

図5 製品・商品・原材料の在庫状況D Iの推移 - 調査産業計 -

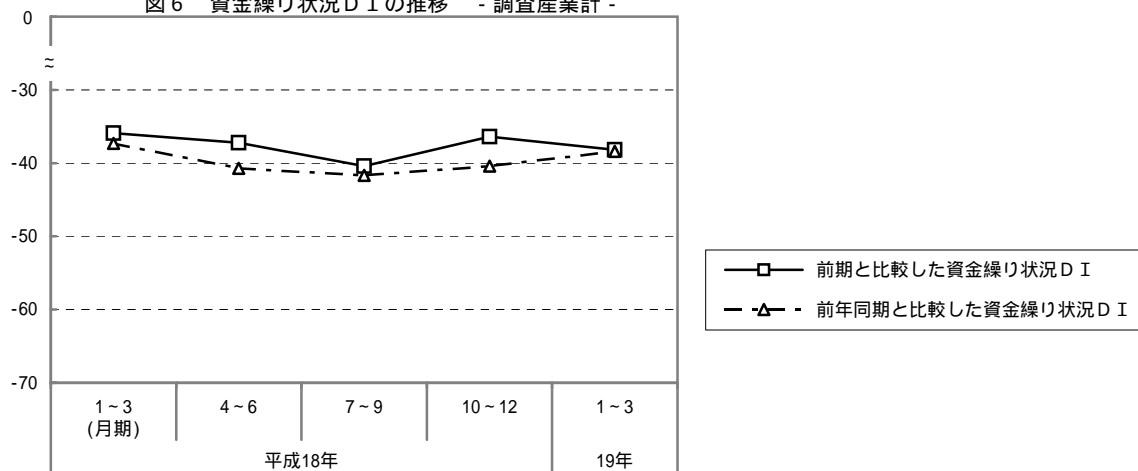


(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)38.2 で、前期 (-36.4) に比べ、1.8 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)38.4 で、前期 (-40.4) に比べ、2.0 ポイント改善した。

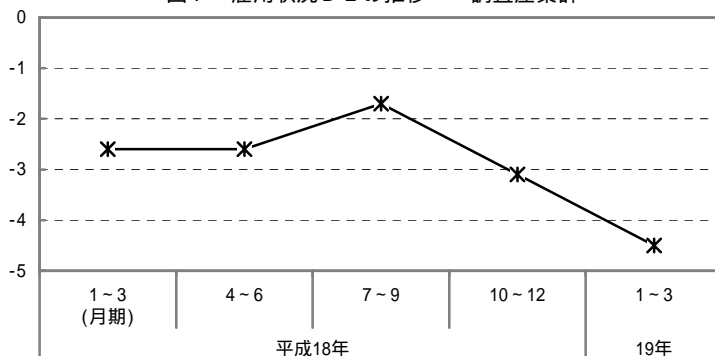
図6 資金繰り状況D Iの推移 - 調査産業計 -



(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)4.5 で、前期 (-3.1) に比べ、1.4 ポイント「不足」が拡大した。

図7 雇用状況D Iの推移 - 調査産業計 -



2 製造業

(1) 業況

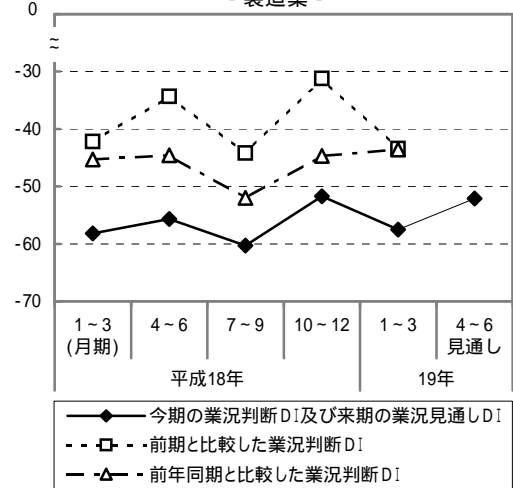
今期の業況

- ア 今期（平成19年1～3月期）の業況判断D Iは（-）57.5で、前期（平成18年10～12月期）（-51.7）に比べ、5.8ポイント悪化した。
- イ 前期と比較した業況判断D Iは（-）43.4で、前期（-31.2）に比べ、12.2ポイント悪化した。
- ウ 前年同期（平成18年1～3月期）と比較した業況判断D Iは（-）43.6で、前期（-44.7）に比べ、1.1ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年4～6月期）の業況見通しD Iは（-）52.1で、今期の業況判断（-57.5）に比べ、5.4ポイントの改善の見通しとなっている。

図8 業況判断D Iの推移
- 製造業 -



(2) 売上の状況

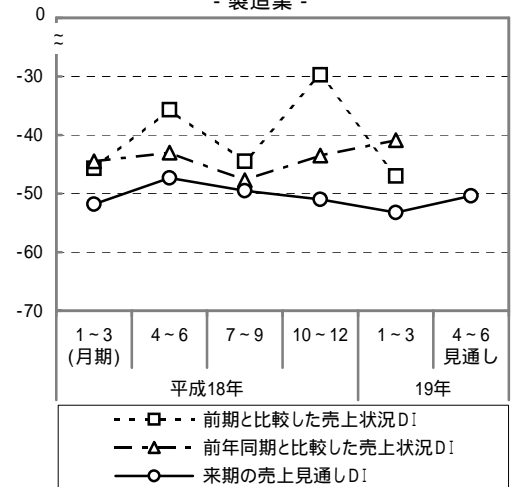
今期の売上の状況

- ア 前期と比較した売上状況D Iは（-）47.0で、前期（-29.7）に比べ、17.3ポイント悪化した。
- イ 前年同期と比較した売上状況D Iは（-）40.9で、前期（-43.5）に比べ、2.6ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは（-）50.4で、前期における今期の売上見通し（-53.2）に比べ、2.8ポイントの改善の見通しとなっている。

図9 売上状況D Iの推移
- 製造業 -



(3) 営業利益の状況

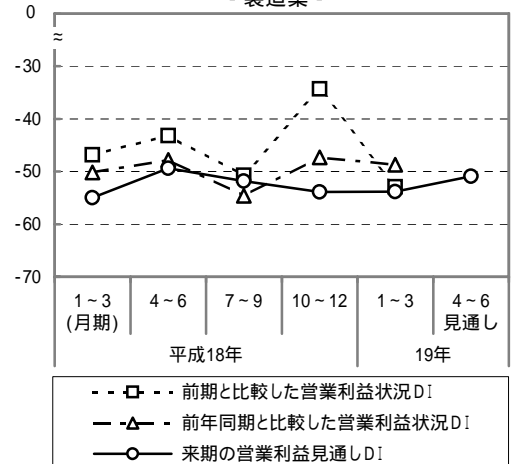
今期の営業利益の状況

- ア 前期と比較した営業利益状況D Iは（-）52.9で、前期（-34.3）に比べ、18.6ポイント悪化した。
- イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは（-）48.7で、前期（-47.3）に比べ、1.4ポイント悪化した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは（-）50.9で、前期における今期の営業利益見通し（-53.8）に比べ、2.9ポイントの改善の見通しとなっている。

図10 営業利益状況D Iの推移
- 製造業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)3.0 で、前期 (+4.3) に比べ、1.3 ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)37.2 で、前期 (-31.9) に比べ、5.3 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)39.5 で、前期 (-36.3) に比べ、3.2 ポイント悪化した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)5.5 で、前期 (-1.7) に比べ、3.8 ポイント「不足」が拡大した。

図11 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 - 製造業 -

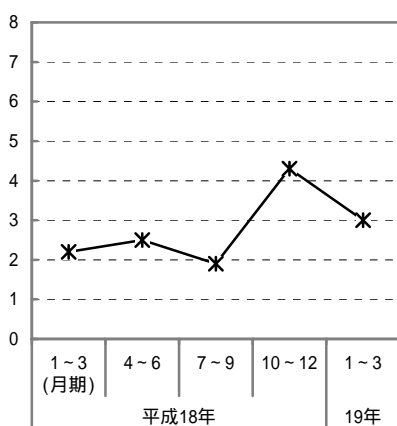


図12 資金繰り状況DIの推移 - 製造業 -

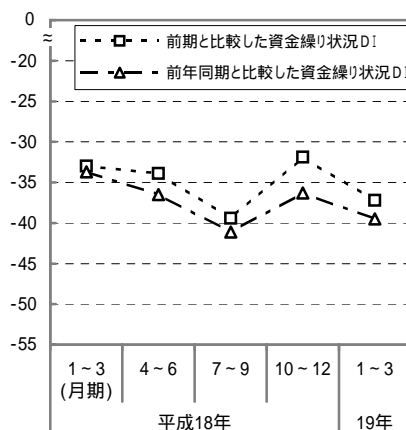
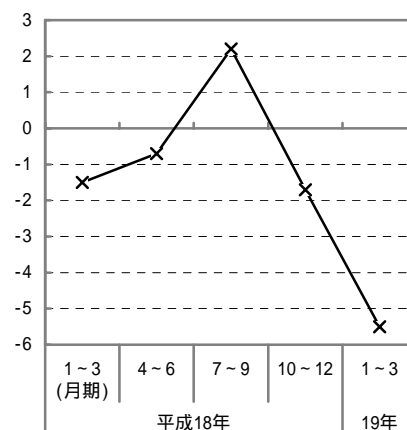


図13 雇用状況DIの推移 - 製造業 -



3 卸売・小売業

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成19年1～3月期）の業況判断DIは (-)64.0 で、前期（平成18年10～12月期）(-60.4) に比べ、3.6 ポイント悪化した。

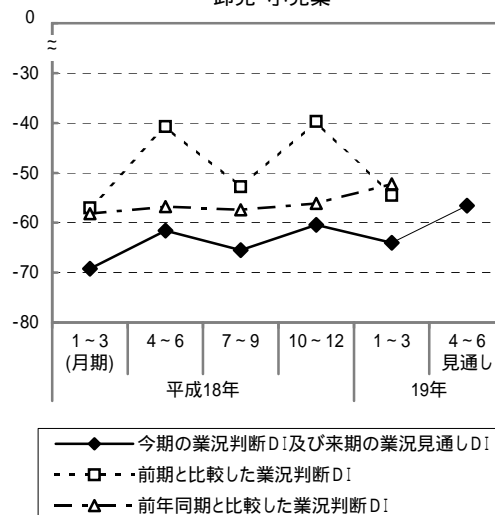
イ 前期と比較した業況判断DIは (-)54.5 で、前期 (-39.7) に比べ、14.8 ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成18年1～3月期）と比較した業況判断DIは (-)52.2 で、前期 (-56.1) に比べ、3.9 ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年4～6月期）の業況見通しDIは (-)56.6 で、今期の業況判断 (-64.0) に比べ、7.4 ポイントの改善の見通しとなっている。

図14 業況判断DIの推移 - 卸売・小売業 -



(2) 売上の状況

今期の売上の状況

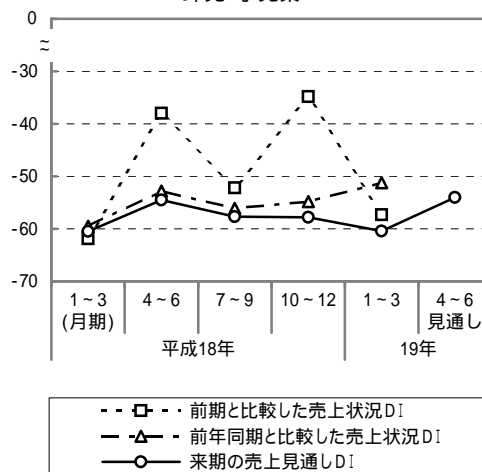
ア 前期と比較した売上状況D Iは (-)57.3 で、前期 (-34.8) に比べ、22.5 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況D Iは (-)51.2 で、前期 (-54.8) に比べ、3.6 ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しD Iは (-)54.0 で、前期における今期の売上見通し (-60.4) に比べ、6.4 ポイントの改善の見通しとなっている。

図15 売上状況D Iの推移
- 卸売・小売業 -



(3) 営業利益の状況

今期の営業利益の状況

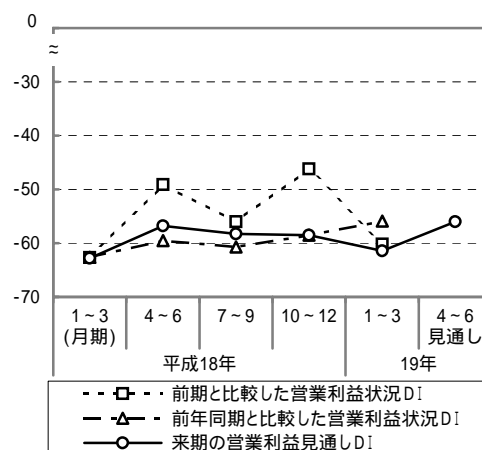
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)60.2 で、前期 (-46.2) に比べ、14.0 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)55.9 で、前期 (-58.5) に比べ、2.6 ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)56.0 で、前期における今期の営業利益見通し (-61.4) に比べ、5.4 ポイントの改善の見通しとなっている。

図16 営業利益状況D Iの推移
- 卸売・小売業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)5.6 で、前期 (+4.5) に比べ、1.1 ポイント「過剰」が拡大した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)36.0 で、前期 (-32.9) に比べ、3.1 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)36.3 で、前期 (-36.5) に比べ、0.2 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)4.5 で、前期 (-4.0) に比べ、0.5 ポイント「不足」が拡大した。

図17 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 - 卸売・小売業 -

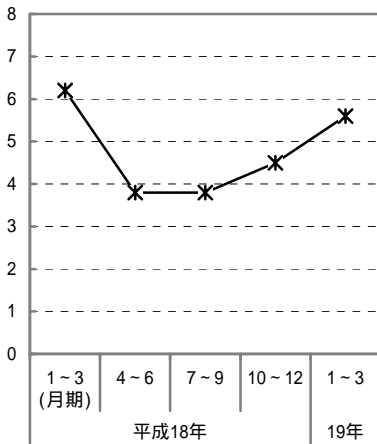


図18 資金繰り状況DIの推移 - 卸売・小売業 -

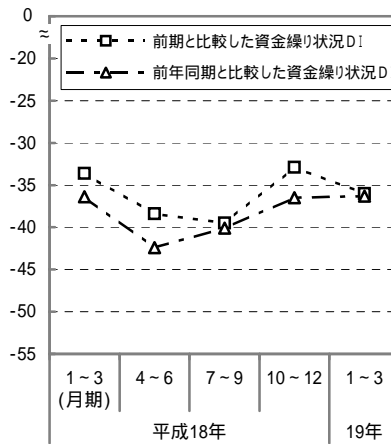
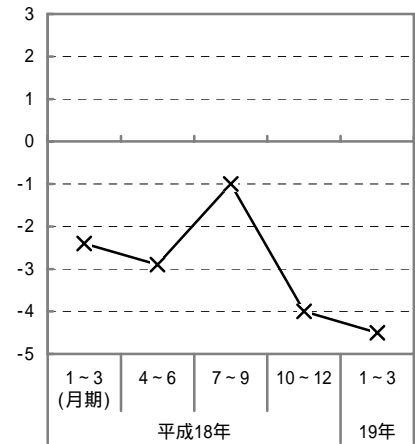


図19 雇用状況DIの推移 - 卸売・小売業 -



4 飲食店，宿泊業

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成19年1～3月期）の業況判断DIは(-)61.5で、前期（平成18年10～12月期）(-65.7)に比べ、4.2ポイント改善した。

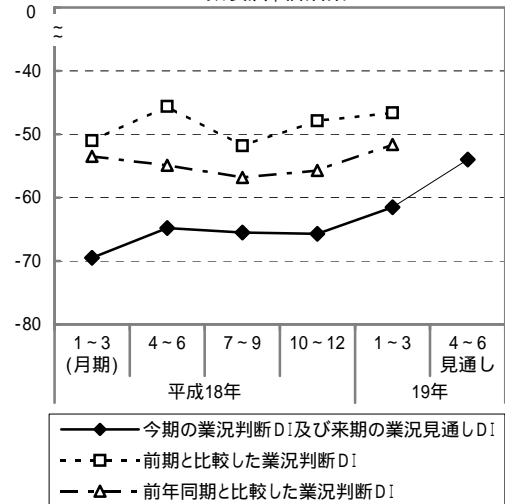
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)46.6で、前期(-47.9)に比べ、1.3ポイント改善した。

ウ 前年同期（平成18年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)51.6で、前期(-55.7)に比べ、4.1ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年4～6月期）の業況見通しDIは(-)54.0で、今期の業況判断(-61.5)に比べ、7.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図20 業況判断DIの推移 - 飲食店，宿泊業 -



(2) 売上の状況

今期の売上の状況

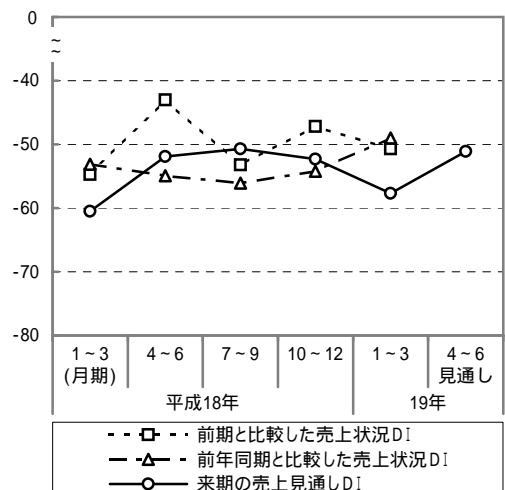
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)50.7で、前期(-47.2)に比べ、3.5ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)49.0で、前期(-54.2)に比べ、5.2ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)51.1で、前期における今期の売上見通し(-57.7)に比べ、6.6ポイントの改善の見通しとなっている。

図21 売上状況DIの推移 - 飲食店，宿泊業 -



(3) 営業利益の状況

今期の営業利益の状況

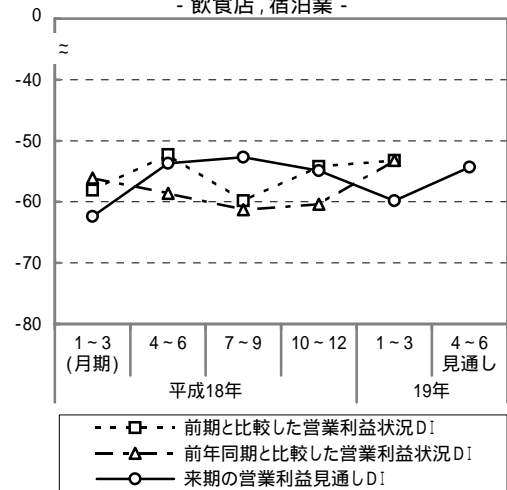
ア 前期と比較した営業利益状況D Iは (-)53.2で、前期(-54.2)に比べ、1.0ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況D Iは (-)53.2で、前期(-60.4)に比べ、7.2ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しD Iは (-)54.3で、前期における今期の営業利益見通し(-59.8)に比べ、5.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図22 営業利益状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況D Iは (+)0.4で、前期(+1.4)に比べ、1.0ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況D Iは (-)40.8で、前期(-45.4)に比べ、4.6ポイント改善した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況D Iは (-)40.1で、前期(-49.7)に比べ、9.6ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況D Iは (-)5.8で、前期(-2.9)に比べ、2.9ポイント「不足」が拡大した。

図23 製品・商品・原材料の在庫状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -

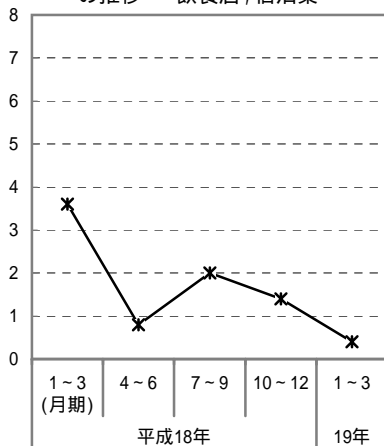


図24 資金繰り状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -

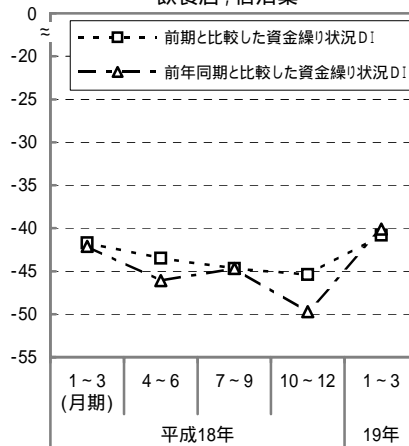
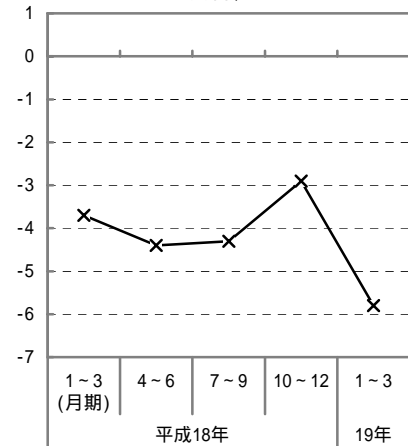


図25 雇用状況D Iの推移
- 飲食店、宿泊業 -



5 サービス業

(1) 業況

今期の業況

ア 今期（平成19年1～3月期）の業況判断DIは(-)69.6で、前期（平成18年10～12月期）(-66.5)に比べ、3.1ポイント悪化した。

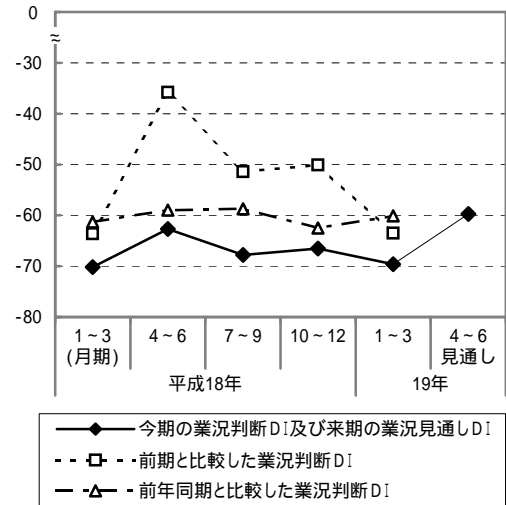
イ 前期と比較した業況判断DIは(-)63.5で、前期(-50.1)に比べ、13.4ポイント悪化した。

ウ 前年同期（平成18年1～3月期）と比較した業況判断DIは(-)60.1で、前期(-62.5)に比べ、2.4ポイント改善した。

来期の業況見通し

来期（平成19年4～6月期）の業況見通しDIは(-)59.7で、今期の業況判断(-69.6)に比べ、9.9ポイントの改善の見通しとなっている。

図26 業況判断DIの推移
- サービス業 -



(2) 売上の状況

今期の売上の状況

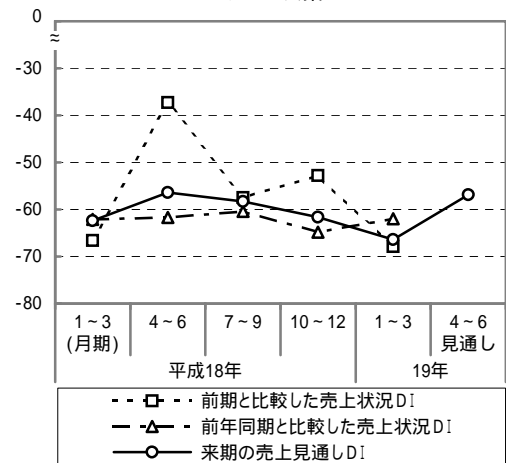
ア 前期と比較した売上状況DIは(-)67.9で、前期(-52.8)に比べ、15.1ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した売上状況DIは(-)62.0で、前期(-64.8)に比べ、2.8ポイント改善した。

来期の売上見通し

来期の売上見通しDIは(-)56.9で、前期における今期の売上見通し(-66.4)に比べ、9.5ポイントの改善の見通しとなっている。

図27 売上状況DIの推移
- サービス業 -



(3) 営業利益の状況

今期の営業利益の状況

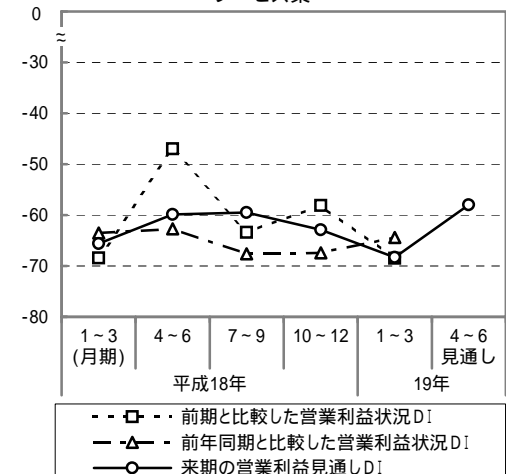
ア 前期と比較した営業利益状況DIは(-)68.5で、前期(-58.1)に比べ、10.4ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した営業利益状況DIは(-)64.4で、前期(-67.4)に比べ、3.0ポイント改善した。

来期の営業利益見通し

来期の営業利益見通しDIは(-)58.0で、前期における今期の営業利益見通し(-68.3)に比べ、10.3ポイントの改善の見通しとなっている。

図28 営業利益状況DIの推移
- サービス業 -



(4) 製品・商品・原材料の在庫状況

今期の製品・商品・原材料の在庫状況DIは (+)0.5 で、前期 (+2.5) に比べ、2.0 ポイント「過剰」が縮小した。

(5) 資金繰りの状況

ア 前期と比較した資金繰り状況DIは (-)40.2 で、前期 (-37.9) に比べ、2.3 ポイント悪化した。

イ 前年同期と比較した資金繰り状況DIは (-)39.9 で、前期 (-41.9) に比べ、2.0 ポイント改善した。

(6) 雇用状況

今期の雇用状況DIは (-)2.7 で、前期(-2.2) に比べ、0.5 ポイント「不足」が拡大した。

図29 製品・商品・原材料の在庫状況DIの推移 - サービス業 -

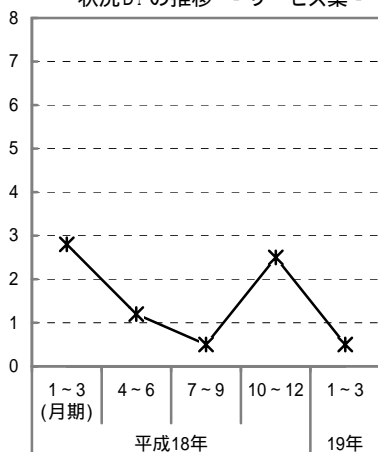


図30 資金繰り状況DIの推移 - サービス業 -

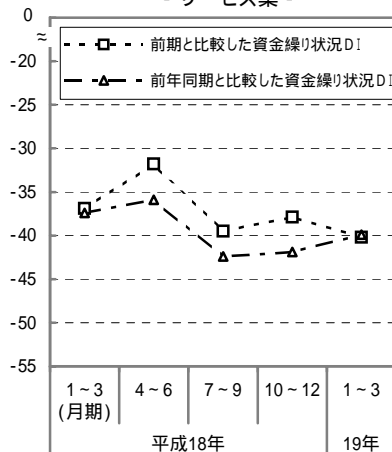
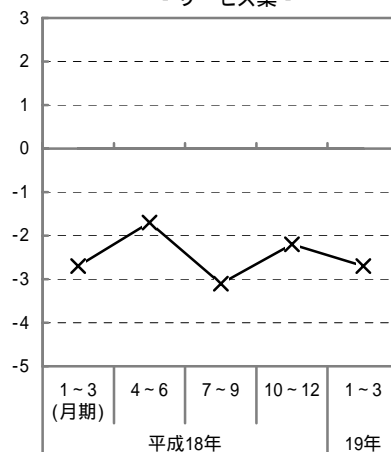


図31 雇用状況DIの推移 - サービス業 -



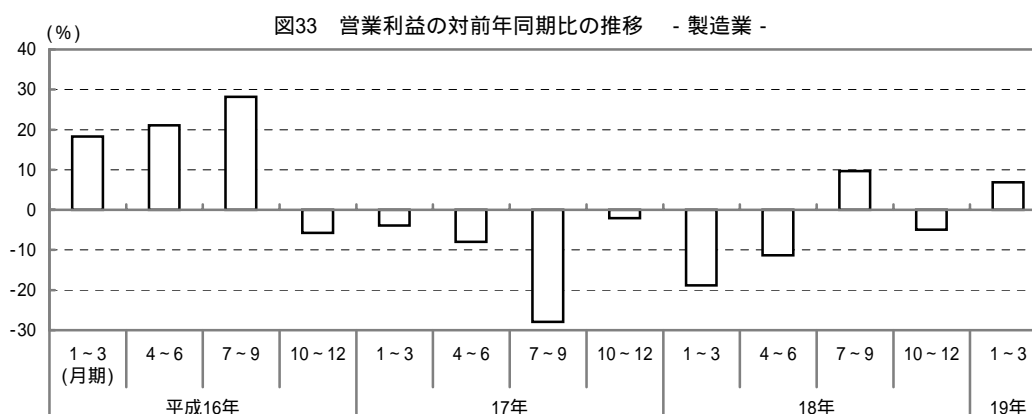
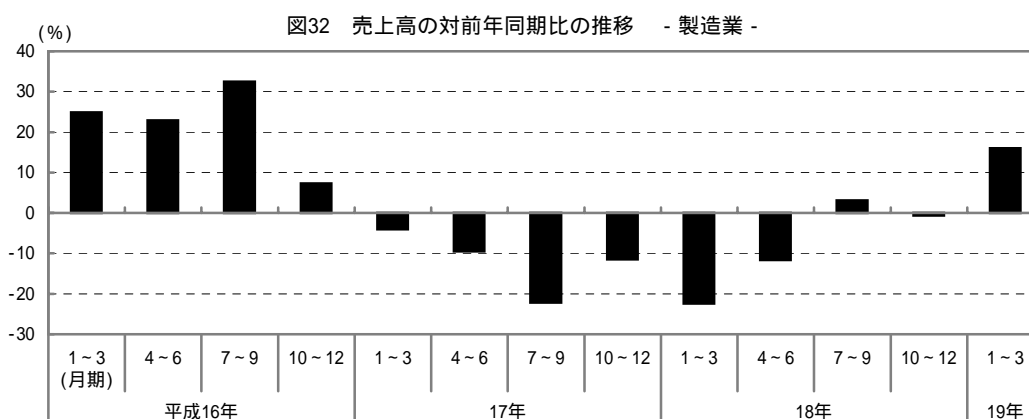
営業収支

1 製造業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は261万1000円で、これに対する費用は売上原価が81万2000円、営業費が105万5000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は74万4000円となった。

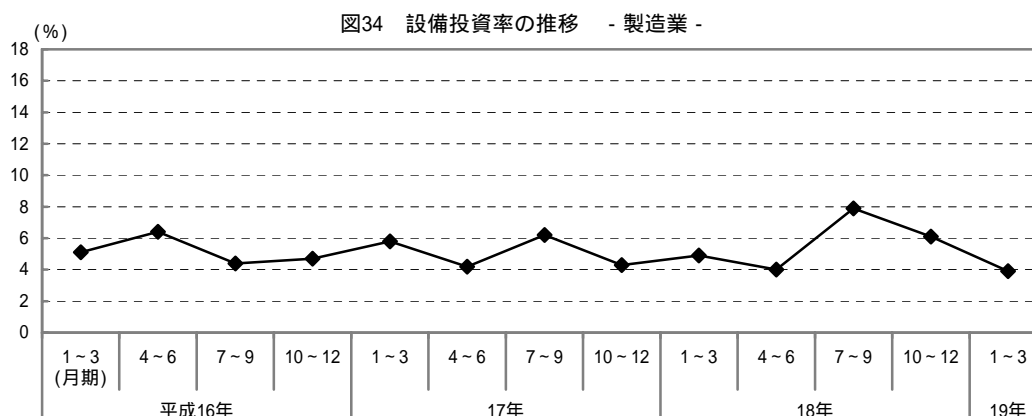
対前年同期比をみると、売上高は(+) 16.0% で、2期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 6.9% で、2期ぶりに増加した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は10万3000円で、前年同期(11万円)を下回った。

また、設備投資率(売上高に対する設備投資額の割合)は 3.9% で、前年同期(4.9%)を1.0ポイント下回った。

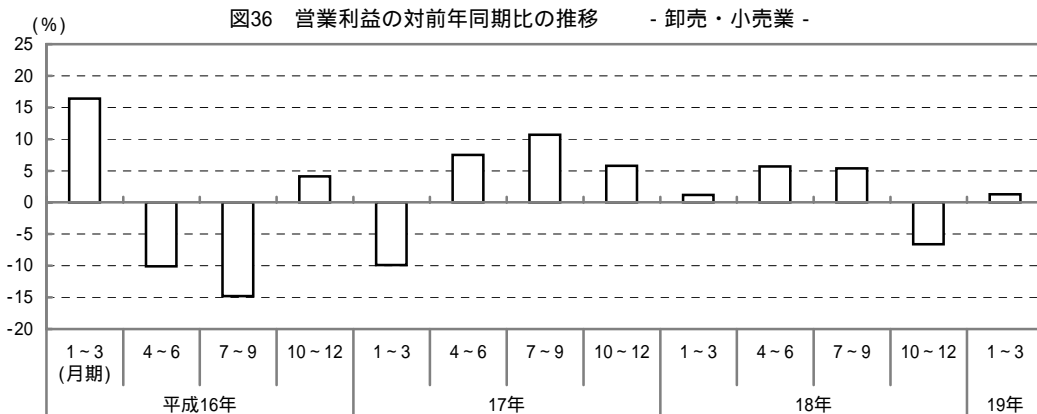
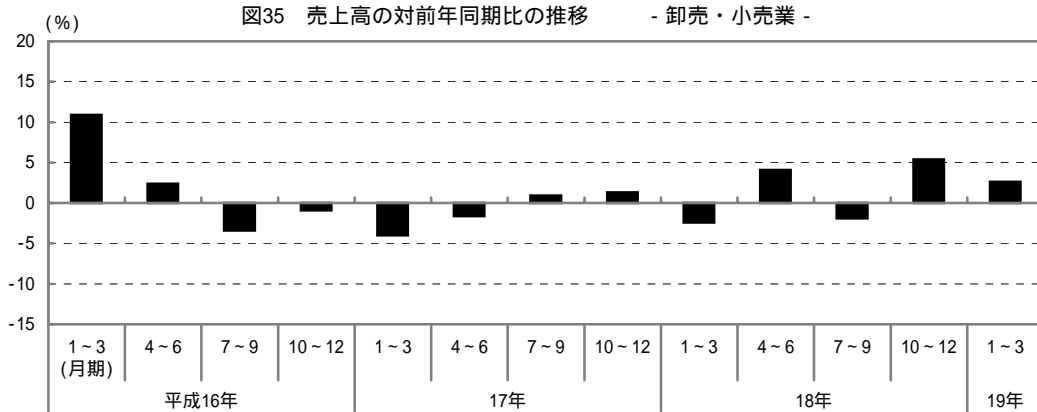


2 卸売・小売業

(1) 売上高及び営業利益

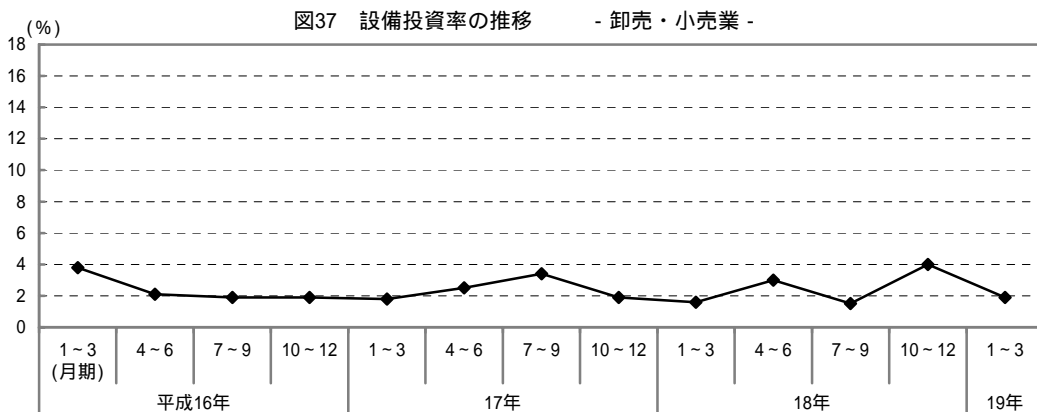
今期の1事業所当たりの売上高は472万6000円で、これに対する費用は売上原価が319万5000円、営業費が99万9000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は53万2000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 2.6% で、2期連続で増加した。また、営業利益は(+) 1.3% で、2期ぶりに増加した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は9万1000円で、前年同期(7万5000円)を上回った。また、設備投資率は 1.9% で、前年同期(1.6%)を 0.3 ポイント上回った。

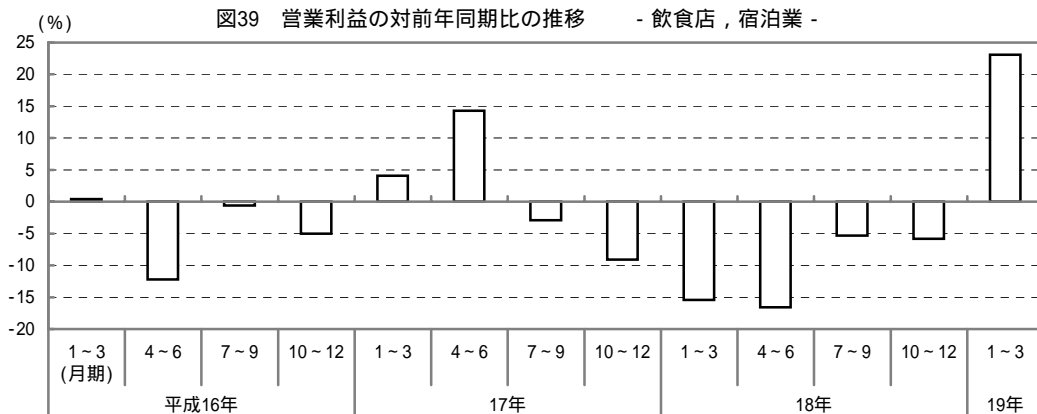
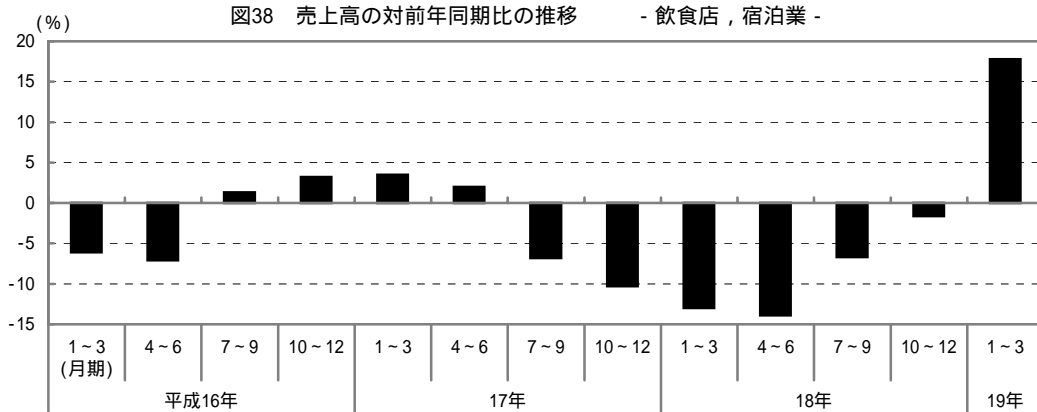


3 飲食店，宿泊業

(1) 売上高及び営業利益

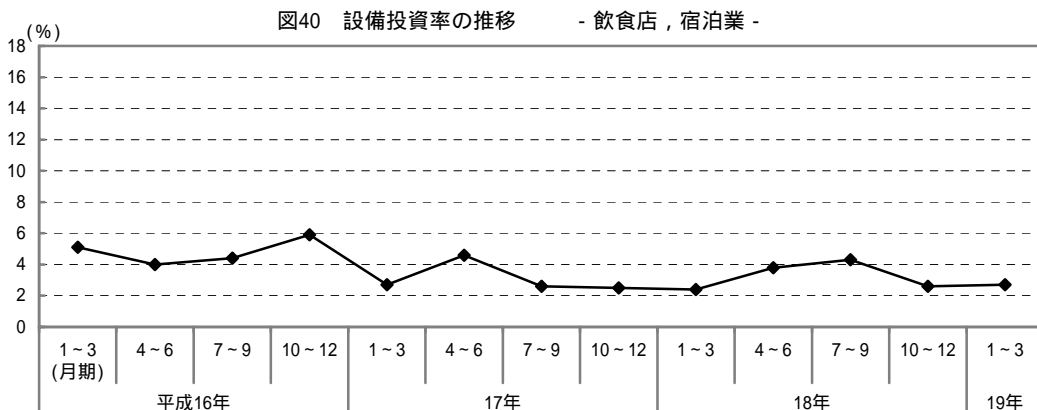
今期の1事業所当たりの売上高は246万2000円で、これに対する費用は売上原価が98万6000円、営業費が91万6000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は56万円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 17.8% で、7期ぶりに増加した。また、営業利益は(+) 23.1% で、7期ぶりに増加した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は6万7000円で、前年同期(5万1000円)を上回った。また、設備投資率は 2.7% で、前年同期(2.4%)を0.3ポイント上回った。

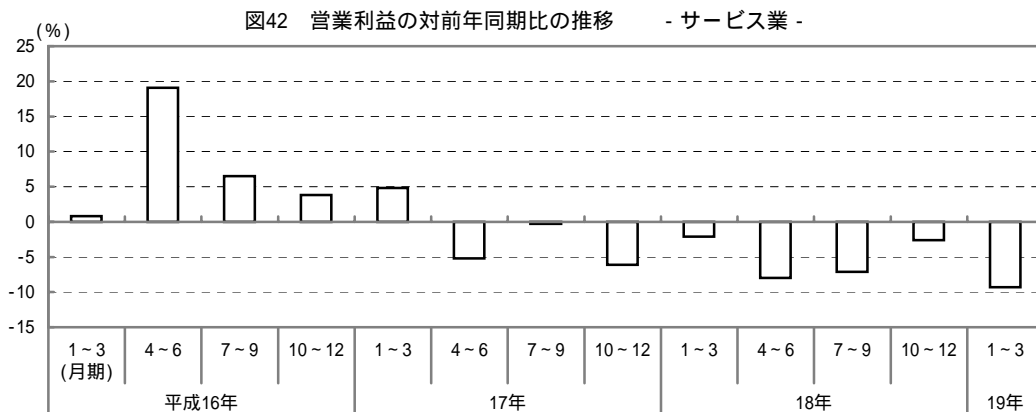
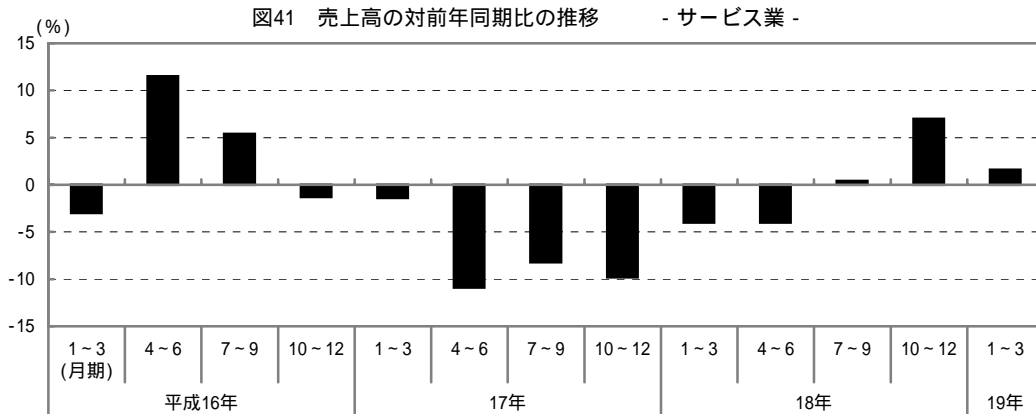


4 サービス業

(1) 売上高及び営業利益

今期の1事業所当たりの売上高は137万7000円で、これに対する費用は売上原価が25万3000円、営業費が65万7000円となり、売上高からこれらの費用を差し引いた営業利益は46万8000円となった。

対前年同期比をみると、売上高は(+) 1.6% で、3期連続で増加した。また、営業利益は(-) 9.3% で、8期連続で減少した。



(2) 設備投資

今期の1事業所当たりの設備投資額は6万1000円で、前年同期(4万4000円)を上回った。

また、設備投資率は 4.4% で、前年同期(3.2%)を1.2ポイント上回った。

